

「キツネ岩」の調査

— 宅地造成工事に伴う確認調査 —



1991年4月

太子町教育委員会

例 言

1. 本書は、兵庫県揖保郡太子町東保神田253番地に所在する「キツネ岩」の調査概要報告書である。
2. 調査は、土田忠良氏所有の水田の宅地造成にともない、平成3年4月8日から4月10日に発掘調査を実施したものである。
3. 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次・田村三千夫・海野 浩幸が担当した。
4. 本調査・整理作業にあたっては、以下の協力を得た。
太子町シルバー人材センター、調査補助員として小山真紀・首藤聖・藤井昭子氏の協力を得た。
5. 遺物の実測は、小山が行ない、トレースは首藤が行なった。
6. 本書の執筆・編集は、田村・海野が担当した。

目 次

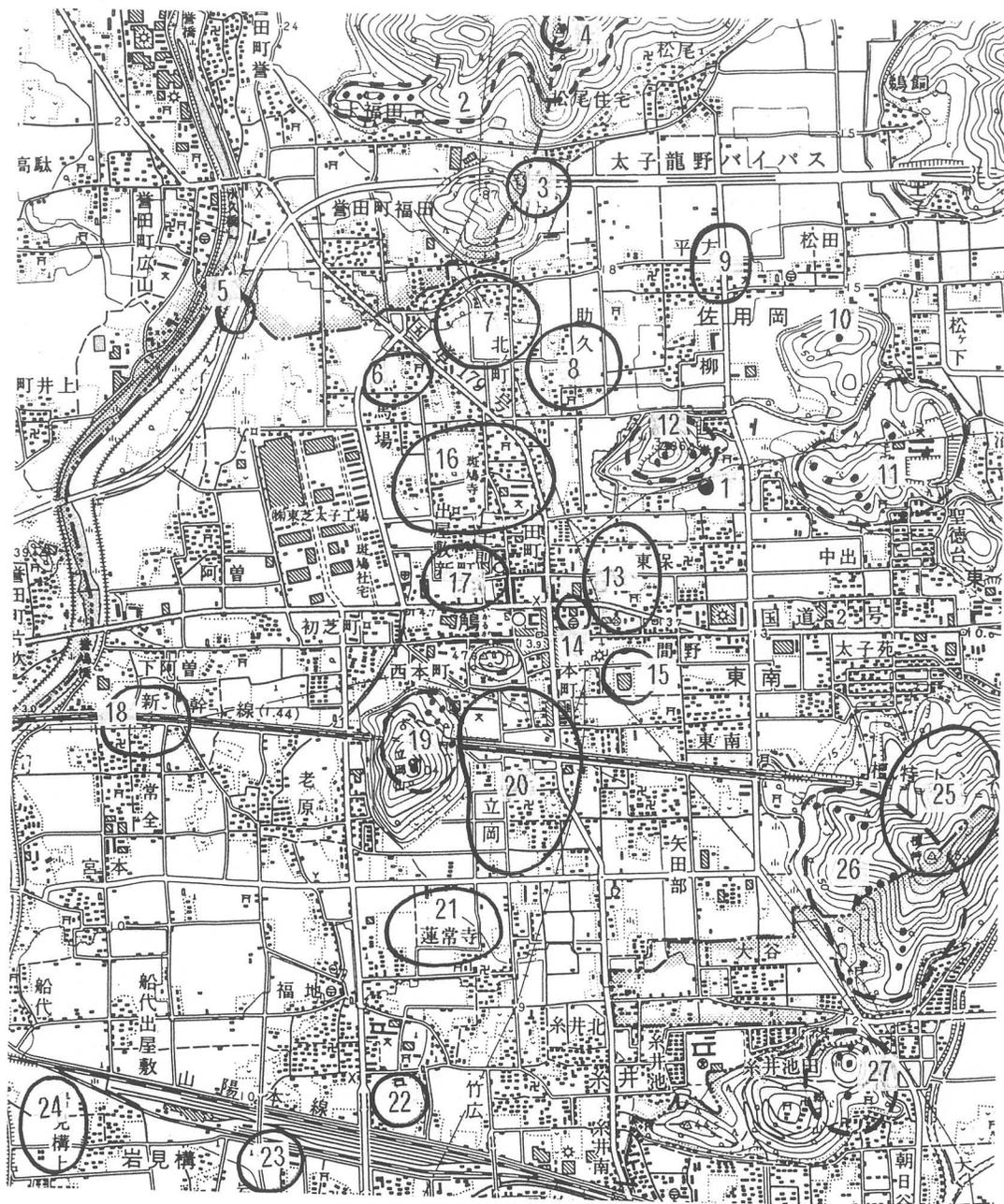
1. 調査に至る経過	2
2. 調査の概要	2
3. 遺物観察表	8
4. まとめ	9
5. 埋蔵文化財発掘調査概要	10

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図	1
第2図 調査地区平面図	3
第3図 土層図	5
第4図 「キツネ岩」実測図	9
第5図 出土遺物実測図 1	6
第6図 出土遺物実測図 2	7

写真目次

写真1 作業風景	11
写真2 作業風景	11
写真3 調査地区(南より)	12
写真4 調査地区(東より)	12
写真5 「キツネ岩」(北東より)	13
写真6 「キツネ岩」(南東より)	13
写真7 南北トレンチ南端部土層	14
写真8 南北トレンチ「キツネ岩」北側土層	14



第1図 周辺遺跡分布図 (1/25000)

- | | | | |
|-----------|-------------|------------|-----------|
| 1 東保・キツネ岩 | 2 笹山墳墓群 | 3 坊主山遺跡 | 4 笹山経塚群 |
| 5 春日社址 | 6 馬場遺跡 | 7 城山遺跡 | 8 枝重・助久遺跡 |
| 9 平方遺跡 | 10 松田山古墳 | 11 丹生山古墳群 | 12 東保山古墳群 |
| 13 鶴遺跡 | 14 鶴・石田遺跡 | 15 東南遺跡 | 16 斑鳩寺遺跡 |
| 17 斑鳩寺南遺跡 | 18 常全遺跡 | 19 立岡山古墳群 | 20 立岡遺跡 |
| 21 蓮常寺北遺跡 | 22 福地・宮ノ前遺跡 | 23 福地・相坂遺跡 | 24 上構遺跡 |
| 25 檀特山遺跡 | 26 檀特山古墳群 | 27 朝日山古墳群 | |

「キツネ岩」の調査

1. 遺跡の所在地 兵庫県揖保郡太子町東保神田253番地
2. 調査主体者 太子町教育委員会
3. 調査担当者 三村修次 田村三千夫 海野浩幸
4. 調査期間 平成3年4月8日～4月10日
5. 調査面積 18㎡
6. 座標 平面直角座標系VIを使用した

7. 調査に至る経過

「キツネ岩」は、聖徳太子が壇特山から指一本で投げたとの伝説があり、土田忠良氏所有の水田（標高12.20m）に所在し、地表上に約30cm程が露出している。今回この水田を宅地造成することになり、それに先立って「キツネ岩」の発掘調査を実施した。

この地区の周辺の通称小字名は、「梅ノ木」と呼ばれ、湿田である。

8. 調査の概要

調査は「キツネ岩」に直行する南北11m、東西8m、幅1m、のトレンチを設定して行なった。

南北トレンチでは、第1層に現在の耕作土、第2層に灰黄色客土、第3層に厚さ20cm前後の明灰色土で「キツネ岩」の北側では細礫を含む、第4層に厚さ20cm前後の灰色粘質土で北側（山側）へ行くほど礫を多く含む様になり、「キツネ岩」の北約1.5mで終る。第5層は非常に締まった黄灰色地山岩崩土で、「キツネ岩」の南約1mで終り黒灰色粘質土が始まる。この土層は南へ行くほど厚く堆積していた。第6層は黄色土の地山である。

遺物は第3層と第4層より弥生時代から中・近世の石鏃、サヌカイト片、土器片等が出土した。第5層以下は、無遺物であった。

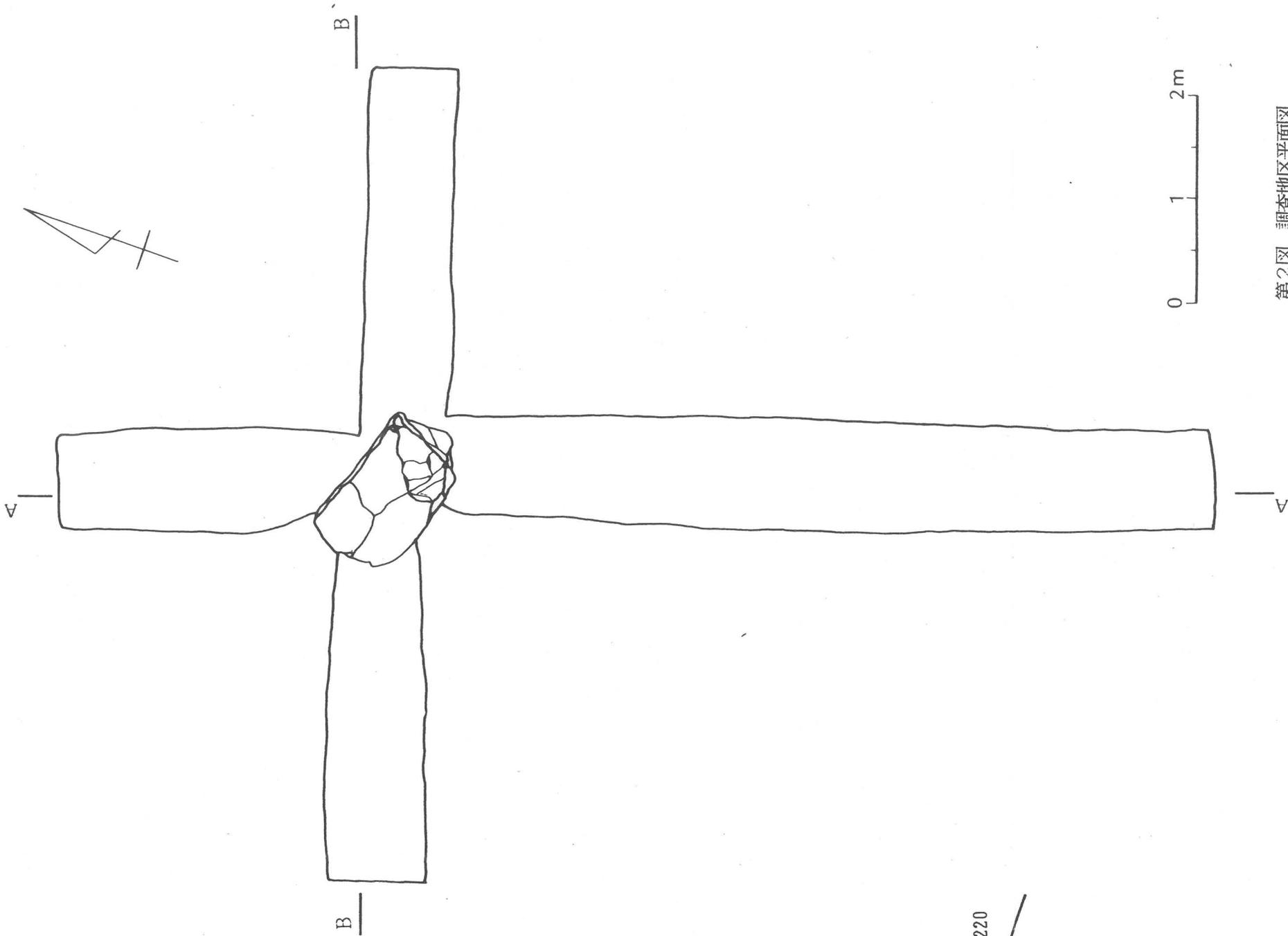
東西トレンチの土層は南北トレンチとほぼ同一の層序であるが、第3層の明灰色土は「キツネ岩」の東側で礫を含み、第4層の灰色粘質土は一部に暗灰色土を含んでいた。

Y = 23, 270

X = -129, 210

-3-

X = -129, 21



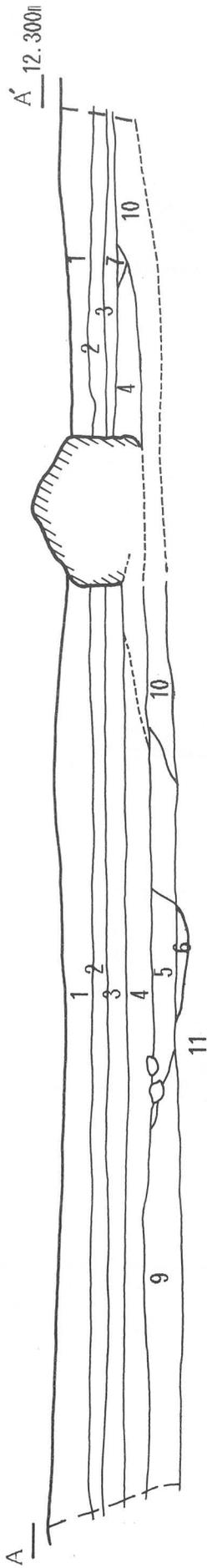
第2図 調査地区平面図

X = -129, 220

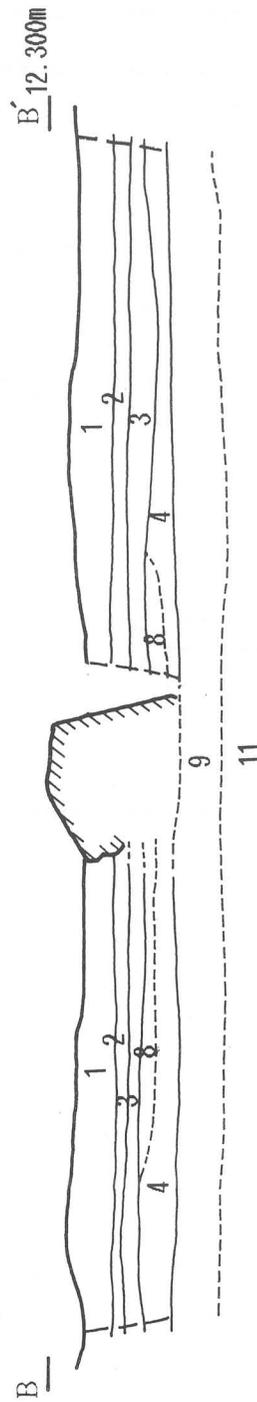
-4-

Y = 23, 270

X = -129, 22



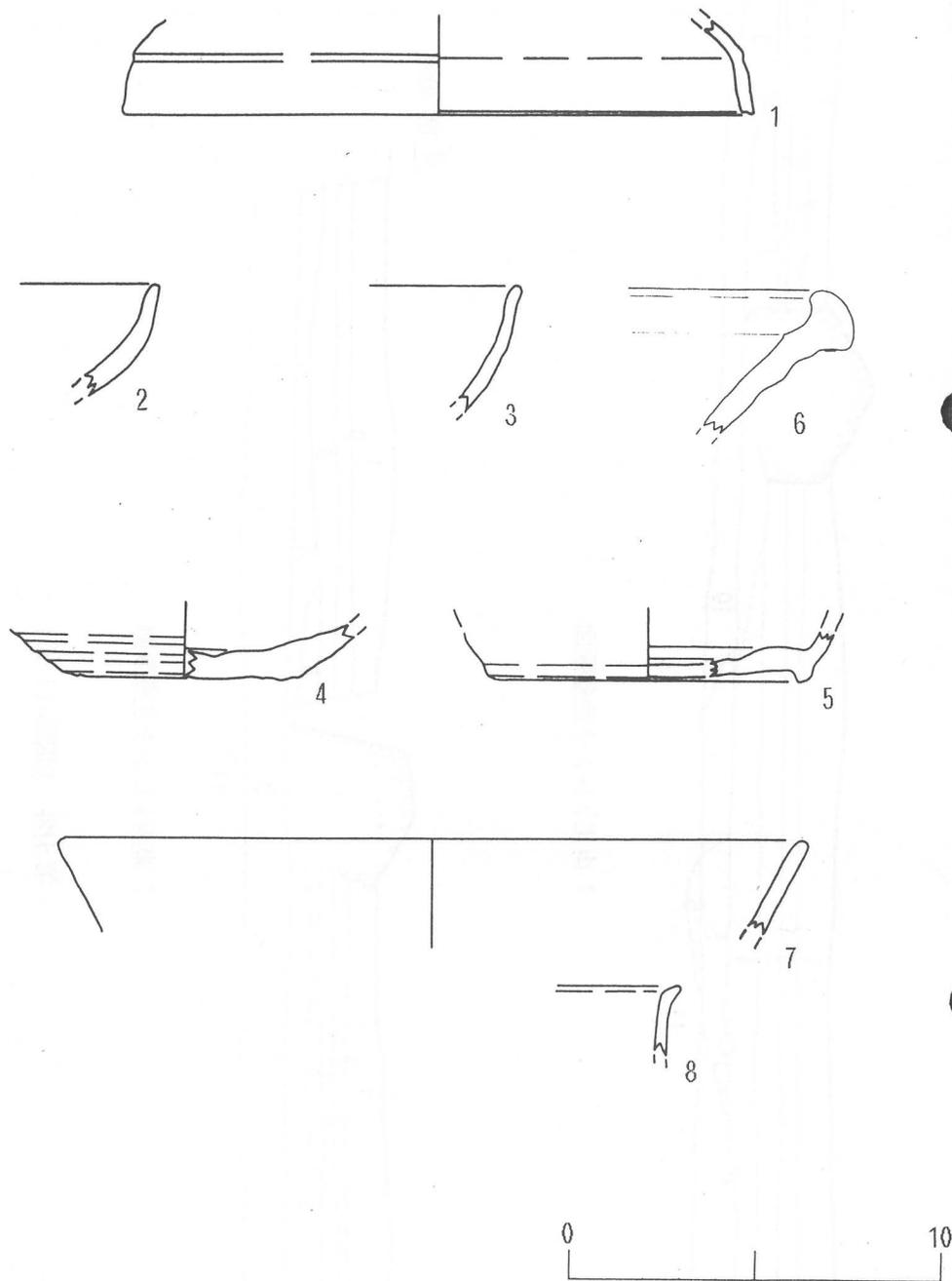
1. 南北トレンチ西壁断面



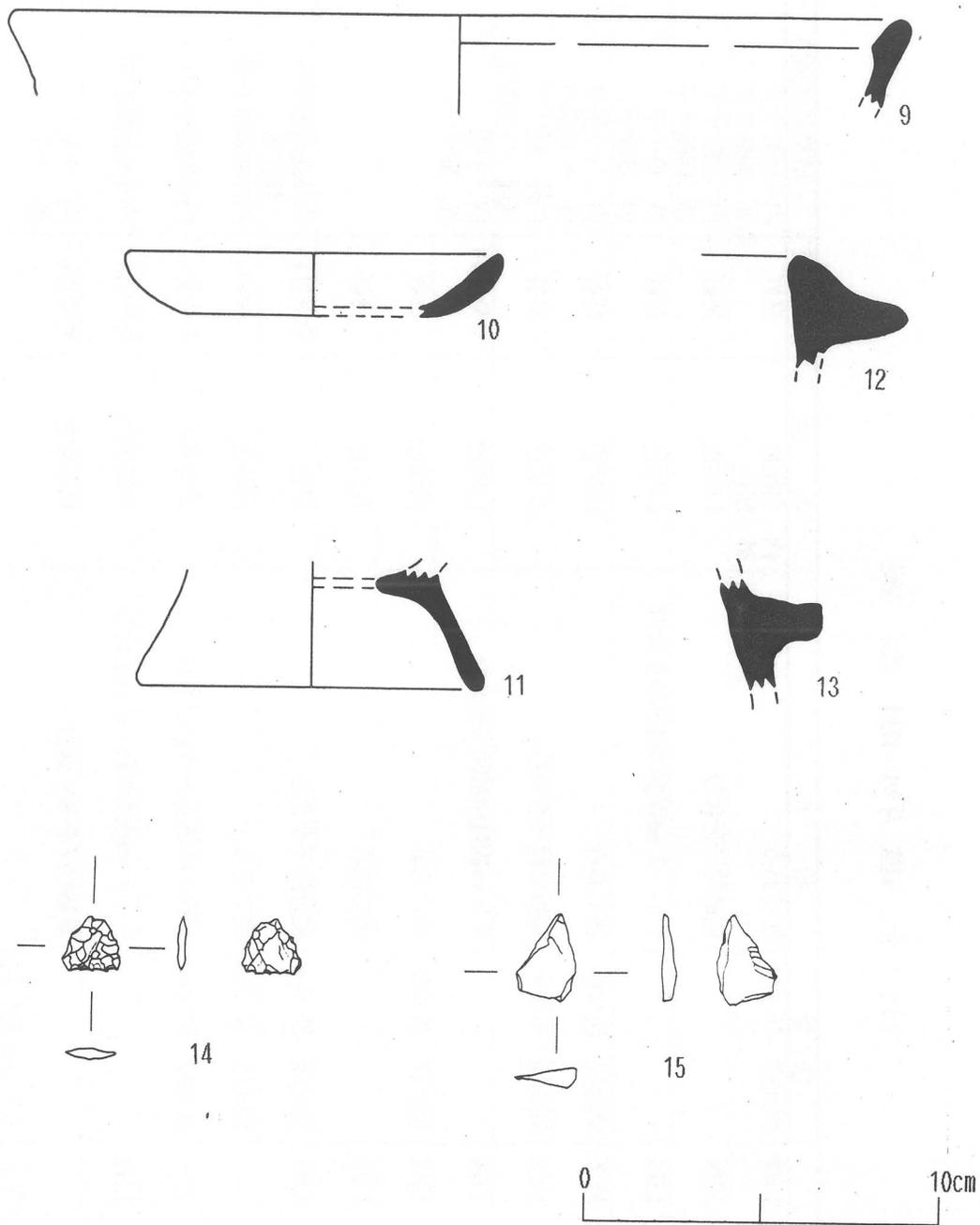
2. 東西トレンチ北壁断面

第3図 土層図 (1/50)

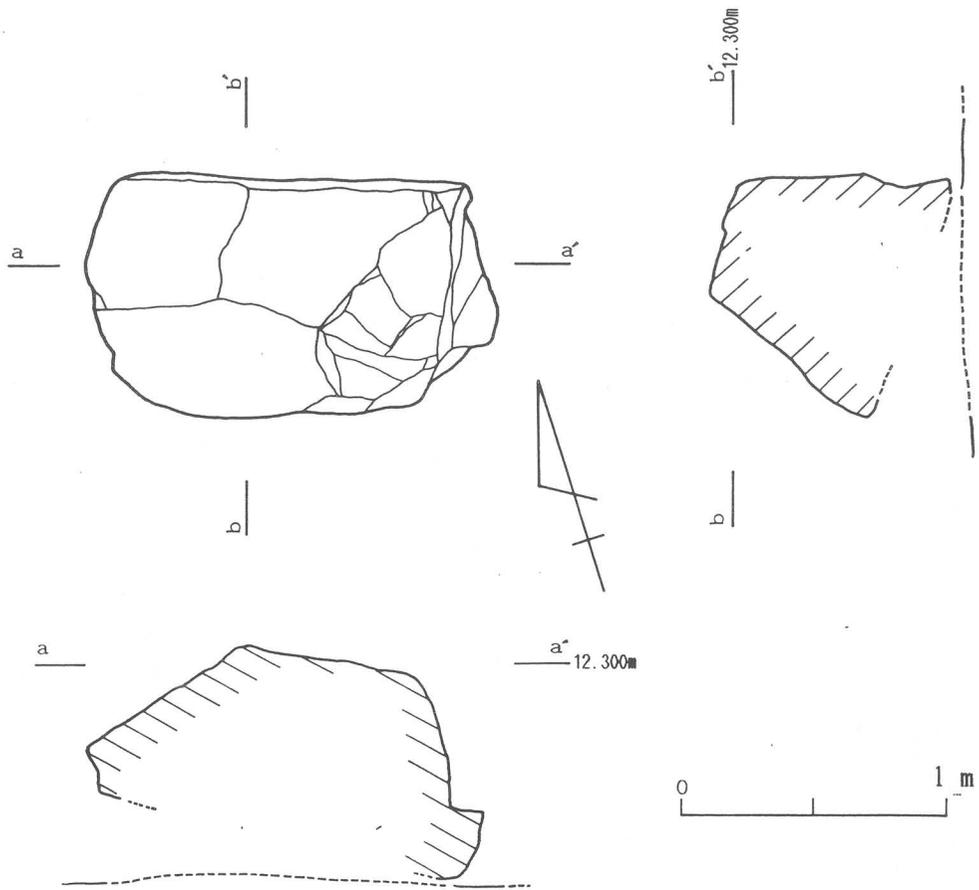
- | | | |
|-------------------------|------------------------------|-----------------------|
| 1. 耕土 | 2. 灰黄色客土 | 3. 明灰色土 (北及び東側で細礫を含む) |
| 4. 灰色粘質土 (北側で礫を含む) | 5. 灰色土 (無遺物) | 6. 灰色砂質土 (無遺物) |
| 7. 黄色土 (鉄分集積) | 8. 暗灰色土混じり灰色粘質土 | |
| 9. 黒灰色粘質土 (北側で礫を含む。無遺物) | 10. 黄灰色地山岩崩土 (非常に締まっている。無遺物) | |



第5图 出土遺物実測図(1)



第6図 出上遺物実測図(2)



第4図 「キツネ岩」実測図

9. まとめ

今回の調査において「キツネ岩」は、第5層の黄灰色地山岩崩土、或るいは黒灰色粘質土の直上に存在するが、上層からの掘り方や、据え付け基盤等は検出されなかった。

又、南北トレンチの灰色粘質土層の直下で黒灰色粘質土層をきりこむ、灰色土及び、灰色砂層の堆積が認められたが、遺物は検出されず、人為的な遺構であるかわ不明である。

黄色土地山面にも遺構は検出されなかった。なお、「キツネ岩」は、1.56m×0.90m×0.80mの規模を計ることができた。

現在、保存問題については、所有者及び、地区の方々と協議を行ない現地番内に移築し「聖徳太子の伝承遺跡」として、保存することが考えられている。



写真1 作業風景



写真2 作業風景



写真3 調査地区（南より）



写真4 調査地区（東より）

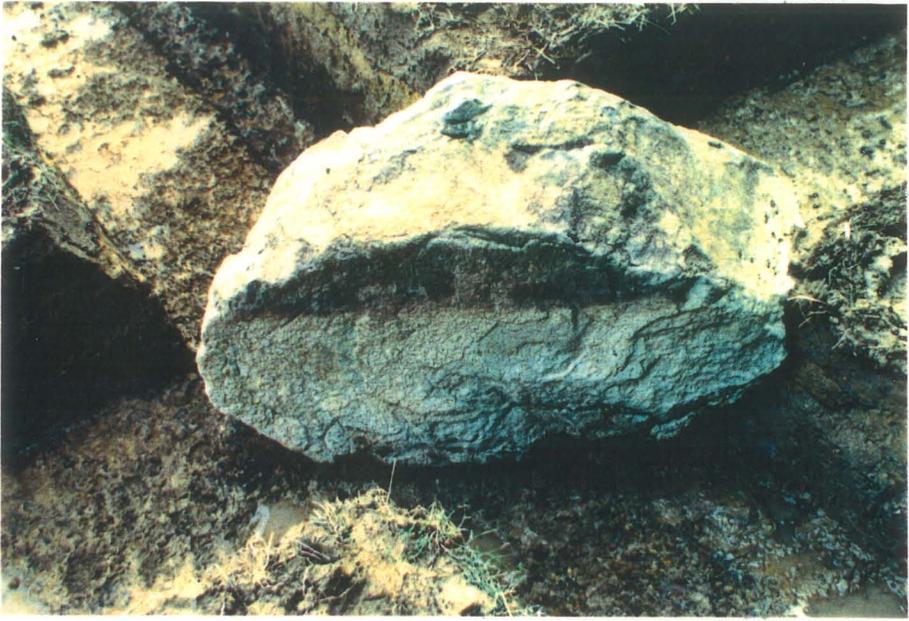


写真5 「キツネ岩」 (北東より)



写真6 「キツネ岩」 (南東より)

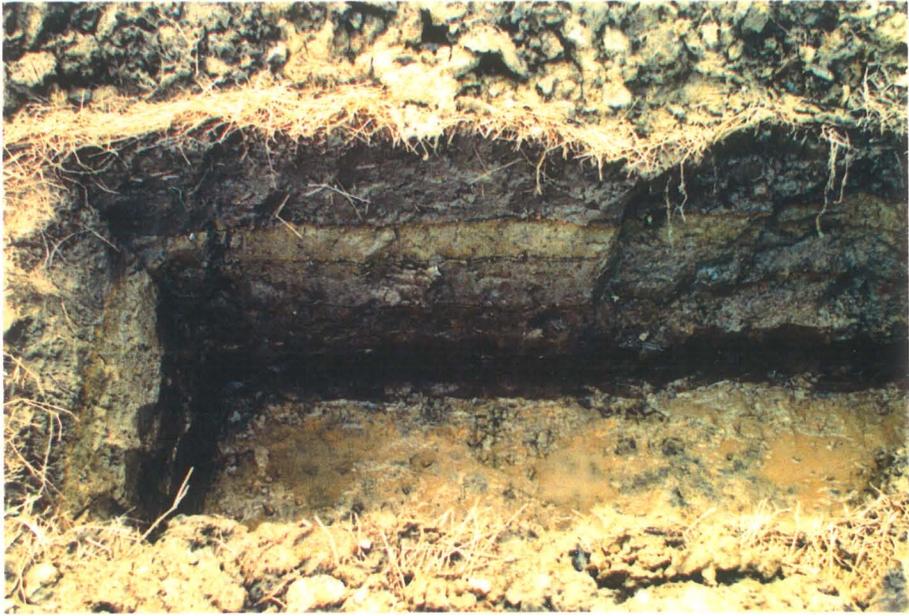


写真7 南北トレンチ南端部土層



写真8 南北トレンチ「キツネ岩」北側土層

埋蔵文化財発掘調査概要

太子町

遺跡の名称	「キツネ岩」	遺跡台帳 番号	
所在地	兵庫県揖保郡太子町東保神253番地		
調査の主体及び組織	太子町教育委員会	調査担当者	三村修次 田村三千夫 海野浩幸
原因者(工事主体)	土田忠良	工事の目的及び内容	宅地造成
発掘調査の期間	自 平成 3年 4月 8日 至 平成 3年 4月 10日	調査費及び負担者	土田忠良
発掘通知年月日	平成 3年 4月 7日 太教 第163号	発掘通知者	土田忠良
遺物発見届年月日及び氏名		発掘通知(文化庁より)	
遺跡取扱いの結果	保存 一部保存 破壊	報告書の有無	報告書 概報 なし

調査概要 立地・外形・遺構の状況・遺物の内容及び数量等を記入し遺跡構えの図面・写真は必ず添付のこと。

立地 太子町の中央部、東保前山(86.77m)の南、標高12.20mの水田に位置し、上部約30cmが露出している。
「キツネ岩」の所在する水田は湿田で、通称「梅ノ木」の小字名で呼ばれている。

外形 全長1.56m、幅0.90m、高さ0.80m を測ることができた。

遺物 表土下10~50cmの間に位置する明灰色土と灰色粘質土の2層より、弥生時代から中・近世の土器片等が出土した。

まとめ 「キツネ岩」に関する掘り方・据え付け痕跡及び、他の遺構は検出されなかった。
なお、「キツネ岩」は地山面の上層20cmのところ存在していた。



調査地区写真
(東より)

